

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 茨木市

実践研究校名 太田小学校

【公開授業】公開日：平成25年11月11日

対象学年：5年

(教材・教科書名) Hi, friends! (单元名) 「TV showをしよう！」 What ... do you like? I like ...	(本時の指導の目標) 第2時 TVshowの流れを作る。 第5時 TVshowをしよう！ ・どんなものが好きかについて尋ねたり、答えたりしようとする。 ・会話の表現の仕方や尋ね方に親しむ。 ・ジェスチャーなどを使い、相手に伝えようとする。
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ホスト役とゲスト役に分かれ、インタビューを「する」「受ける」の両方を経験させた。質問には、その場で考え答えるようにした。質問がわからなければ、“Once more, please.” “Hint, please.”等の表現を覚え、聞き返したりしながらやりとりできるようにした。
- ・日本語的な表現にならないよう、チャンツ等を取り入れ、リズムよく表現できるようにした。
- ・配慮を要する児童や戸惑ってしまう児童について、積極的に学習に取り組むことができるように、グループ学習やペア学習を多く取り入れ、そばに行って声をかけるようにした。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・子どもたちがのびのびと伝えたいことを伝えようとすることができた。
- ・子どもたちは、楽しんで活動に参加し、英語の表現を使うことができた。

【研究協議会】

(テーマ) LINK! 自分を表現し、つながり合う太田っ子の育成	(指導・助言者) 関西大学大学院 外国語学科 竹内 理教授
-------------------------------------	-------------------------------------

(研究協議会で出された意見)

今回は、研究発表として太田中学校・小学校合同の発表会を行った。全体会では、研究討議をせず、本中学校区の「使える英語プロジェクト事業」の取り組みについて発表した。

(詳しくは、研究冊子参照)

たくさんの参加者が得られ、来賓の方からも評価の言葉をいただいた。

竹内教授の指導助言

今まで助言してきたこと

- (1) めあてを毎回しっかり持ち、目標を明確にする。
- (2) バックワードデザインをする。
- (3) コミュニケーションの必然性を持たせること
- (4) 形ではなく、機能を教える事に力をいれる。
- (5) 子どもたちにモデルを示す。
- (6) 振り返りをする。
- (7) 共有すること。

今後の課題

- ・小中のこれまでの取り組みを市内等他校にどう広めていくのか。
 - ・音声の問題 カタカナ英語にならない工夫。チャンツ等の研究
-

(まとめ)

1. 必然性を持たせた場の設定を行う外国語活動の授業づくりを、継続していく。
2. 小中9年間のバックワードデザイン、単元のバックワードデザインを行いながら授業を作っていく。
3. 小中連携のパイプをより強化していく。